

全ベルコ労働組合裁判 控訴審第6回証人尋問「報告集会」を開催

10月27日、札幌高裁においてベルコ事件控訴審第6回証人尋問が開かれ、連合北海道は傍聴行動を行うとともに、連合・情報労連と共催で報告集会を開催した。本集会には構成組織・地域協議会、マスコミなど約40名が参加した。

午前10時から午後3時半まで行われた証人尋問では、控訴人側から原告2名を含め、4名が証人として出廷した。

証人尋問のなかで、原告らFA職の主たる業務である葬儀施工において、ベルコ代理店主が一切関与していない事実が明らかになったほか、(株)ベルコが、ベルコ代理店従業員の募集・採用をはじめ、従業員の給与体系・営業ペナルティ・配置転換といった労働条件等についても統一的に指示していた実態が判明した。

閉廷後、ホテルロイトン札幌にて報告集会を開催した。

冒頭、連合の逢見直人・会長代行は、業務委託を濫用し労働法規の潜脱する(株)ベルコに対し「このビジネスモデルが容認されれば、日本の雇用社会は崩壊する。ベルコ闘争を世論に訴え、(株)ベルコの問題や理不尽さを理解してもらいたい」と挨拶した。



逢見直人・連合会長代行の主催者代表挨拶

次に、弁護団の各弁護士が控訴審の要点等について報告した。



裁判の経過概要を報告する棗一郎・弁護士

そのなかで、棗一郎・弁護士は、一審の判決内容にはFA職の具体的な職務内容や指示命令系統が盛り込まれていなかったことに触れ、「控訴審では証人尋問が減多に行われることはない。今日の証人尋問のなかでFA職の葬儀施工の具体的な業務内容や指揮命令について明らかすることができた」と述べ、今後の見通しについては、「来年1月19日が最終弁論期日。高裁から和解勧告もあり得るが、来年3月末もしくは4月末までには判決が出されるのではないか」と示唆した。



高橋功・全ベルコ労組委員長

つづいて、証人尋問に立った全ベルコ労組の高橋功・委員長ら3名の証言者が、控訴審での証言内容やベルコ闘争への思いなどを語った。高橋委員長からは「長い闘いのなかで、多くの方々からお力添えをいただいている。最後まで頑張っていきたい」と感謝の意も述べられた。

支援決意表明では、全ベルコ労組の上部団

体である情報労連の水野和人・組織対策局長が「ベルコのビジネスモデルに警鐘を鳴らすべく、マスコミのみなさんにも世論喚起をお願いしたい。この闘いも7年目に入り長期戦ではあるが、今後ともご指導いただきたい」と訴えかけ、引き続きの支援を要請した。



水野和人・情報労連組織対策局長

最後に、連合北海道の杉山

元・会長が「2014年の夏、連合北海道の労働相談ダイヤルにきた一本の電話から、すでに7年目に入る。この間、原告は精神面、生活面においても苦勞していると思うが、今回の証人尋問を受けて、逆転判決に向け、もう一踏ん張り頑張っていたきたい。『曖昧な雇用』のもと、苦しむ労働者がいる。このビジネスモデルを断じて許してはならない。引き続きのご支援をお願いしたい」と述べ、閉会した。



杉山元・連合北海道会長